

防災セット



「もしも」の時、自分を守ります。

予期せぬ災害には備えが大切です。近年、全国で予測を超える災害が発生しております。万が一の事態に備えておく重要性はますます高まっております。厳選アイテムをまとめたコンパクトな防災セットで、もしもの時も慌てず、安全を確保しましょう。

A

お部屋用



しっかり丈夫！イス型リュックタイプ

緊急時に座れるイス型リュックは、避難時の休憩や、物資を受け取る際の待ち時間など、様々な場面で活躍！撥水加工なので雨の日も安心。ヘルメットやランタン、保存水など、災害初期に本当に必要な17点を厳選しました。

19,800 円(税込)

B

お部屋用



お手頃！リュックタイプ

災害時に役立つアイテムを厳選した充実の21点セット！ヘッドライトや保存クッキーに加え、サコッシュやエアークッションなど、避難生活を少しでも快適に過ごすためのアイテムも充実。防災ガイドメモ付で、いざという時の行動もスムーズに。

9,900 円(税込)

B

車載用



車載用防災15点セット

緊急事態で車が立ち往生！そんな「もしも」の時も、安心です。脱出ハンマーや折りたたみマルチショベルで、いざという時の脱出・救助をサポート。保存水や7年保存クッキー、静音アルミブランケットなど、車内での滞在に必要なアイテムも充実。限られた車内空間に収まる厳選12点で、あなたの安全な移動を支えます。

9,900 円(税込)

※詳細については担当者までお気軽にお問合せ下さい。

☆商品内容紹介動画コチラ☆ →



防災セットが なぜ必要か

災害はいつ起こるかわかりません。
ライフラインの停止や物資の不足から、
自分と大切な人の命を守るために、
事前の備え(防災セット)が必要です。



01 備蓄が必要なワケ

- ⚠ ライフラインが止まる
- ⚠ 物資の供給が途絶える可能性がある
- ⚠ 災害発生後 **72時間**は人命救助のデッドライン

備蓄の目安: 最低3日 推奨1週間分

02 ライフライン復旧にかかる時間

9割程度復旧するまでの日数

	東京被害予測	阪神淡路大震災	東日本大震災
💡 電気	6日	2日	6日
🚰 水道	30日	37日	24日
🔥 ガス	55日	61日	34日

建物に被害がなくても、ライフラインの影響で備蓄が必要となります。

「ライフライン復旧にかかる時間」を覚えておきましょう。

電気	水道	ガス
約1週間	約1か月	約1~2か月

03 ふだん1日分の消費量

- 💧 飲料水: 1人3L/日
(料理に使うものを含む)
- 🪣 生活用水: 1人約230L/日
- 🚽 排尿: 5~7回/日

▼ 3日分の備蓄推奨

- 💧 飲料水: **1人9L~**
- 🚽 トイレ: **1人15回~**

※消費庁のガイドラインでは生活用水について触れていません。
一般的に1人1日当たり10L~20L程度は必要とされています。

04 何を備えたらいいの?

個人(一人当たり)の備蓄ポイント

- ・水: 9L (1人当たり1日3L×3日分)
- ・主食: 9食 (1人当たり1日3食×3日分)
- ・トイレ: 15回分
- ・その他も3日分を想定して備える
(簡易トイレ、衛生品、携帯ラジオ、ライト、乾電池、救急用品 等)



備えのステップ

0次の備え

防災ポーチ
(ひと晩分)



1次の備え

非常用持ち出し袋
(1日程度、避難所で
過ごすとき)



2次の備え

在宅避難用備蓄
(3~7日、自宅での避難)



05 災害の種類



06 近年の主な自然災害から学ぶ

阪神・淡路大震災 (1995年)



死者の8割以上が木造住宅などの
倒壊による圧死や窒息死。

三宅島の噴火 (2000年)



全島民約3800人が本土へ。
世界の火山で観測されたことが
ないほどの長期間にわたって
大量の火山ガスが放出。

東日本大震災 (2011年)



M9.0、6つの震源地、災害関連死を
含め約2万2000人。高さ10M/
総延長約2.4kmもあった防潮堤を
超えての津波、津波からの火災と
防災上多岐にわたる課題を残した災害。

熊本地震 (2016年)



震度7が2回、観測史上初。
関連死が直接死の4倍だった。

まとめ

01 備蓄の目安は
最低3日
(推奨1週間分)



02 ライフライン
復旧にかかる時間
を覚える



03 1日分の消費量
×3日分



04 “備え方”を
覚えておく



05 地域に合わせた
“備え”ができること



06 過去の災害
から学ぶ



⚠ 防災セットは「万が一」に備える安心です。今日からできる備えを、まずは一歩は始めましょう！